

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		児童発達支援チャオ				公表日	令和7年3月3日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4		適切。今の広さでできる活動を行っている。	運動系の活動をしたいなと思った時には園外に行っている。天候に左右されない場所があれば尚良いと感じている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4		子どもの人数に対して職員の配置数は基準を満たしている。現在の配置基準の見直しを検討してほしいと感じる。	より質の高い支援を提供するためにも、配置基準の見直しを改めて検討していただきたい。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		4		バリアフリーではない箇所があるが、今後工事を検討している。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	4		集団活動を毎日行っているため、活動に合った環境を整えている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	4		就学に向けて平仮名や数字を学習してほしいという要望が保護者から多いため、パーテーションなどで空間の確保に努めている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	4		日々職員間で話し合いをしている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		保護者の方の評価を受け止め、社内で話し合い改善できるところは早急に対応している。時間がかかることも含めて検討していく。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4		日々、意見を出し合い話し合っている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		4	外部評価は行ってないが、必要に応じて行っていく。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4		研修には意欲的に参加している。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	4		3月中にHPにて掲載予定。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	4		保護者とは連絡帳や電話、送迎時に気になることや必要だと感じることを伝えている。子どもとは来所時に遊びや会話を通して気持ちを聞き働きかけに対応している。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	4		職員間でその子に必要な活動や体験・経験を話し合っている。話し合いの中で職員間で違ふ子どもの姿を知ることができたり情報交換をすることで、言葉での表現方法を話し合っている。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	4		子どものことを考えた活動を設定して同じ視点で様子を見たり関わったりすることができているので、できていると感じている。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4		その日の様子や状況についての記録をしている。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4		支援計画の用紙ごと変更した為、書き方が難しかったり短い言葉で簡潔に尚且つ伝わりやすい文章で表現したりすることが難しいと感じるが、自分たちなりに具体的に支援を描けていると感じている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	4		園外活動、制作、運動など様々な活動を入れることを意識して職員でアイデアを出し合いながら工夫している。子どもの来る曜日を考えたりあまり同じことが重ならないように設定している。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	4		園外活動、制作、運動など様々な活動を入れながら工夫している。子どもの来る曜日を考えたりあまり同じことが重ならないように設定している。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	4		支援計画にも記載していること(苦手・得意な物事)を設定して取り組む様子や工夫しながら参加している姿を見守ったり支援したりしている。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4		役割分担もするが、日々臨機応変に対応ができるよう職員間で意思疎通はしている。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4		気付いたときに伝えたり子どもが帰った後や次の日の朝に話し合ったりしている。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	4		個別の記録は毎日とっている。また月末に会議を開き、そこで再度まとめたことを記録として残している。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	4		定期的に個別支援計画の見直しと保護者との面談、関係機関と連携を行っている。		

関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	4		できるだけ児発管と職員2人で参加することになっている。難しい場合は、児発管が参加する。	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4		今年度は子ども通っている発達センターに行き、一緒に話を聞く機会があった。連携という意味では同じ目標に向かって支援することや場所によってその子にあった療育をすることの大切さを学ぶことができた。機会だった。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		就学前に保育園と情報交換や共有をすることができた。気になることがあれば互いに連絡を取り合ったり送迎の際に伝え合ったりすることができている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	4		今年度はまだ小学校や支援学校と連絡は取っていないが、年度末には連絡を取り合う予定でいる。	就学に向けて各関係機関でのケース会議を行った。今後も行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
	28	地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外泊研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)				
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	4		年に2回相談をしたり助言を受けたりしている。	アドバイスを聞き活動に取り入れられたり職員が意識して療育したりすることができていたので、今後も継続して行きたい。
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		4	午後の来所のため、関わる機会がない。あるとすれば園外に出かけた際、公園やお店で少しだけ関わったり一緒に遊んだりすることがあること。	地域の方や事業所などにイベントの案内をしたり関わったりする行事を検討していく。	
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	4		来所日の連絡帳や送迎時、または電話などで子どもの様子や気になったことを聞いたり伝えたりしている。その際に必要に応じて別日で時間を設けて面談をすることもある。		
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4		情報提供は行っているが、実際に参加したかは確認は取れていない。	今後も情報提供をしていく。	
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	4		契約時に説明をしている。不明なことがあった際にはその都度説明を行っている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	4		支援計画を作成する前には必ず保護者との面談を行い意向を聞いている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	4		面談の際に話し合ったことをできるだけ目標として設定して、渡す際には説明をしているので、サインや印鑑はもらえている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	4		送迎時や面談などの際に保護者から悩み相談を受けるため、その都度助言や対応をしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4		交流会を行い、小学生や幼児の保護者同士が相談や話せる場を設けている。	兄弟イベントがあれば参加したいと保護者からの要望もあったので、検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	4		保護者からの相談があった際は、職員間で話し合い迅速に対応することを心がけている。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4		毎月、月末におたよりを作成し各家庭に集団活動や事業所内での様子を写真に撮り配布している。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	4		気を付けている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	4		文章や口頭でのお伝えをしています。また、期日や大事な提出物には和紙や使いやすい色や形を変えて記載し渡す際に説明もしている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		4	見学は行っているが、事業所における行事を行っていない。	地域交流再開に向けて地域連携を深めるために関係構築や協力体制を整えていく。
非常	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	4		定期的な避難訓練を行っている。お便りや連絡帳で周知している。	保護者にきちんと周知・説明を行っていないため今後周知できるよう検討していく。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4		定期的な避難訓練を行っている。	安全性が確保されたうえで利用児と一緒に外部へ避難する訓練実施を課題としているため、今後改善しながら取り入れていく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	4		面談や契約時に子どものアレルギーや持病、服薬等の確認をしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4		食物アレルギーの利用者がいないため医師の指示書に基づく対応は今の段階ではしていない。	

時 等 の 対 応	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	4		定期的に避難訓練を行ったり研修に参加したりしている。	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	4		避難訓練を行った際や避難場所に関してのお知らせをしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	4		その都度、職員間で周知し話し合いを行っている。再発防止に心がけている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4		研修に参加したり会議等で確認したりしている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	4		契約時保護者へ説明し同意を得ている。	